

座談会 みやげ業界の将来を見据えて

出席者(順不同)

JTB旅行スタンプ加盟店
みやげみらい委員会委員長(岐阜県・美濃関物産館)
同副委員長
(北海道・豊番館)
同副委員長
(福岡県・福岡観光会館はかた)
同幹事
(岩手県・平泉レストハウス)
同幹事
(島根県・隠外村ふる里)
同委員・連盟事務局
(JTBスーベニア&フォトセンター)
連盟事務局次長
(JTBスーベニア&フォトセンター)

河合 徹氏
阿野 裕司氏
藤 英明氏
小野 寺仁氏
中島 杏介氏
原 明宏氏
馬場 健次氏

司会 = 本社・森田淳



藤氏

阿野 私の地元は昭和新山で、国際雪合戦というイベントを行っており、年々拡大の一途をたどっている。地元のイベントなので、キャバレッジが全国的に広がっている。来年1月にはカネダのバ



東京・天王洲のJTBビルで



中島氏

何をしたかという点、都上あたりは夜の祭りだから、それ以外にお客さまを呼び込む歩き事業や、案内人の導入、町の産業のひと、食品サンプル製作の体験事業などを行った。今度は、郡上八幡のきれいな川をアピールする光のイベントを手掛けようと思っ

地域活性化の一翼担う 行政との連携が不可欠 連盟の「羅針盤」として みやげを旅の思い出に

小野寺 馬場 藤 原子

委員会で、本部のみやげ塾に受講者を動員するため、九州でみやげ塾を開講しようという話にもなった。来年度にも開講する予定だ。

九州は支部がほぼ県単位にある。そのせいで、連盟活動をするにも、九州全体でまとまりがあまりない。たしかに九州観光推進機構もできたが、地域がバラバラであって、なかなかまとまらな

大事なものは地域の人材 仕事にやりがいを感じる 前向きに将来像を模索

阿野 中島 河合

地域活性化につながる、我々業界が地域活性化の一翼を担うべきだ。

先ほど、河合委員長が指摘した通り、今までのみやげ店は地元密着に立ち回った部分があった。地元の人にも使

「あれを食べた」という思い出を植え付けることが狙いだ。子どもが大人になった時に、地元の土産品を思い出すところを紹介しても

「あれを食べた」という思い出を植え付けることが狙いだ。子どもが大人になった時に、地元の土産品を思い出すところを紹介しても

「あれを食べた」という思い出を植え付けることが狙いだ。子どもが大人になった時に、地元の土産品を思い出すところを紹介しても

JTB旅行スタンプ第41回通常総会

9月14日 東京で開催



総会で最終答申するみやげみらい委員会

JTB旅行スタンプ加盟店連盟(小野寺邦夫会長)は7月7日、9月14日、東京の京王プラザホテルで通常総会を開き、連盟本部の諮問機関「みやげみらい委員会」の最終答申を受けたほか、連盟の基幹事業「日本みやげアカデミー賞」(9月19日付)の今後の活動方針を承認した。

要があると、06年の連盟総会で設置を承認。07年に17人の若手会員らで発足し、今年の総会での最終答申に向けて、約2年間議論を行ってきた。

委員会は「JTBが進める交流文化ビジネス、普及が著しい電子商取引の2を新しい事業領域に想定、分科会での現状の研究、連盟とどうかわるかの議論を行ってきた。

最終答申では、2つのテーマと継続の議論と、専門家を交えたプロジェクトチームの必要性を訴え、時限的ながらも委員会の機能を継承、強化した。新しい常設委員会の設置を提案。総会で全会一致で承

ア카데미賞は、今回の第6回を来年開催する。今総会で同賞運営委員の佐藤雅高氏(宮崎県・千種の家)が事業概要を説明した。

計画では、前回同様、全国のみやげ店から賞へのエントリーを募り、来春予定された旅のイベント「旅フェア」会場にエントリー全商品を展示。旅フェア来場者の一般客と、賞の審査委員に優秀作を2泊3日の日程で、全国から推選された若手、次世代経営

者約20人が受講している。観光業界と専門家の講義をヒントに、設定されたテーマの解決策をグループディスカッションを通して探る研修形態となつて

今総会では、次の第16回を来年2月24、25日に行うことを確認したほか、過去の塾の取り組みを講師の大川充彦氏(福岡県・福岡観光会館はかた)、前田勇氏(立教大学名誉教授)、原祥隆氏(国際観光サービスセンター)事務理事らが報告した

新委員会が連盟の未来を継続議論



昨年行われた第5回日本みやげアカデミー賞の審査発表・表彰式



07年の第13回みやげ塾で講演するJTBの田川博己社長(当時専務)